

2024年度 津田塾大学 卒業生に関する企業等へのアンケート 報告書

2024/12

学生生活課作成

調査概要

1) 目的

卒業生が社会で活躍できるよう大学の教育の質の向上のため、卒業生が在学中に身につける学力や資質・能力及び養成しようとする人材像に照らして、教育の成果や効果を検証する

2) ヒアリング対象企業

- ・卒業生が在籍している
- ・大学との関係性が濃い

3) ヒアリング方法

- ・電話、オンライン、メール

4) ヒアリング実施企業

- ・情報サービス 1社
- ・法律事務所 1社
- 上記業界の人事担当者

5) ヒアリング内容

- 【1】在籍している卒業生、採用活動で接触のあった在学生の様子から身に備わっていると
感じる事
- 【2】大学生活で見つけたほうがよい力・能力

調査回答

【1】身に備わっていること

- ・幅広い知識・教養
- ・所属学部・学科・専攻の専門科目の学習能力
- ・外国語運用能力
- ・社会の課題を自らの課題として捉えられる課題発見力
- ・数字やデータに基づいて物事を考える力
- ・自分の意見を論理的に相手にわかりやすく伝える力
- ・適切な日本語を用いて論理的に文書を作成する力
- ・異文化や異なる背景を有する人々に対する理解力
- ・円満な人間関係を築いたり調整する力
- ・目標を設定し、計画的に実行する力
- ・責任感を持ってやり遂げる力
- ・PCの操作、情報ツールを用いる力

- ・ 未知の問題に柔軟に対応する力
- ・ 新しいことを学び続ける力

【2】 大学生活で見つけたほうがよい力・能力

- ・ 様々な状況にしなやかに対応できる柔軟性。学生のうちは様々な経験を積むことが大切である。
- ・ 「自分が頑張ろう」と決めた学術領域において、前向きに、地道に学び抜くというプロセスを通じて「意味の無さそうな学びが、実はどこかで役にたつということ」や「他者との交流を通じて、自分というものがわかってくるということ」、「自分の可能性・潜在能力は思った以上に深く広いこと。」、「自分の経験・思考の枠に囚われず何でもチャレンジすること」に気づいてほしい。
- ・ 「物事に対して、自分自身の頭で考えて自分なりの答えを導き、実際に行動する力。」特に近年はSNSや検索機能の発達により、まず先に答えを見つけられることが当たり前の環境となっており、学生さんと話していても、商品購入やレストランを選ぶ際にはレビューや星の数を確認してから動くことが多いように感じます。社会人になると、正解のない課題に対し、その場で柔軟に対応する必要が幾度も求められるため、冒頭に挙げた力を備えられるように、大学生活という高校までと比べて、選択肢の自由度の高い環境下において、正解のない中で自らで考えて動く経験を学業・課外活動で十二分に積んでいただくと良いように感じています。
- ・ 自分から発信できる力
知識などがあるにもかかわらず自分から発言できない人も見かけます。個人の性格の問題もあると思いますが積極性を啓蒙してもらうとより良いかと思います。

以上